道徳のまち笠松の

ちょっといい話

シリーズ⑩

今年もあいさつあふれる明るい笠松町をつくりましょう

～絵本を使って、子どもたちにあいさつの授業を実施しました～

あけましておめでとうございます。皆様には、新しい年を新しい気持ちで迎えられたことだと思います。

「道徳のまち笠松」では、今年も道徳心を育てるさまざまな活動を行います。昨年同様にご支援・ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

昨年の11月から12月までに町内の小学1年生と、保育所（園）や幼稚園の年長児を対象に「あいさつの授業（道徳）」を行いました。

授業で「あいさつ絵本」を読み深めたことによって、子どもたちは「気持ちを込めてあいさつをすれば、相手に気持ちがきちんと伝わる」ことを学びました。

授業の終わり頃には、「恥ずかしい」とか「めんどくさい」という弱い心に打ち勝って、「気持ちを込めたあいさつ」が出来る子どもたちが増えました。

この授業を行ったことで、相手が元気になるような「気持ちのこもったあいさつのできる子」が笠松町内に増えて欲しいと、心から願わずにはいられません。

あいさつの授業（道徳）で絵本にぬり絵をする子どもたち

なお、授業で使用した「あいさつ絵本1」は、中央公民館に若干在庫がありますので、お申し出ください。

身近で「ちょっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。
☎388-3926　FAX388-3233
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

かさまつの民話「昔むかし」

ご神木のお泊り③

さて、円城寺の方でも、その朝、笠松に見送りの舟を出そうとしたが、船頭たちは口をそろえて、

「この雪まじりの大風、先もよく見えません。静まるどころか、だんだん雪が激しくなるばかりです。これでは、舟を岩や岸にあてて割ってしまいます。」と訴えた。

そして、昼の一時がすぎ、二時になり、四時になってしまった。ご神木を同じ所で二晩も泊らせる訳にはいかない。夜になる前にと風雪の中を十四本のご神木と送り舟が笠松にむけて出発した。

一方、笠松では激しい風とみぞれに、円城寺港のご神木に迎え舟も出せず、川岸を若い衆で固めていた。朝の十時に到着するはずだったが、午後四時すぎになっても、まだ姿が見えなかった。

いっしんに逆立つ川面を見ていた林兵衛と勘三郎は薄やみの中に黒い点をいくつも確かに見て、思わず「あっ。」と声をあげた。

その黒い点はしだいに大きくなり、ご神木をかかえた舟の「伊勢御用」の幟も見える程になった。回りの小舟が命がけで守っているようすが痛いほど、林兵衛や勘三郎にはわかった。

「林兵衛。今日のご神木は笠松でお泊まりじゃと奉行所様がおっしゃったが、へたをすると切腹もんじゃぞ…。」

「勘三郎。おれは切腹もこわいが、無礼があって、神様のばちがあたったり、たたりの方が、もっと恐いわのう。」

（つづく）